

## 開催概要

展覧会名 「サロクバヤ：シンガポール 麗しのスタイル つながりあう世界のプラナカン・ファッション」

会 期 2016年7月26日(火)ー9月25日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

※毎週金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)

休館日 8月1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)、  
9月5日(月)、12日(月)、20日(火)、23日(金)

入館料 一般500(400)円 大学生400(320)円 高校生250(200)円

小中学生100(80円) 60歳以上250(200)円

※( )は、団体10名以上及び渋谷区民の入館料

※障がい者及び付添の方1名は無料

※土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生は無料、毎週金曜日は渋谷区民は無料

主 催 渋谷区立松濤美術館、シンガポール国立アジア文明博物館

協 賛 アグネス・タン(陳金蕊)[シンガポール]、シンガポール政府観光局、  
ヘルトランス、ライトエディション

協 力 ワンダーアジア

公式航空会社 シンガポール航空

会 場 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14

電話：03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>

[交通案内] 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分



お問い合わせ 渋谷区立松濤美術館(担当：鈴木・増田 展覧会担当：平泉・大平)

※広報に関するお問い合わせ

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366 E-mail：info@shoto-museum.jp

★広報用画像もご用意しております。このプレスリリース掲載の広報用画像A～H以外にも応相談。

次回展のご案内 「月一夜を彩る清けき光」2016年10月8日(土)ー11月20日(日)



プレスリリース



## Singapore, Sarong Kebaya and Style -Peranakan fashion in an interconnected world

An exhibition jointly curated with Peter Lee and  
organised with the Asian Civilisations Museum, Singapore

# サロクバヤ

## シンガポール 麗しのスタイル

### つながりあう世界のプラナカン・ファッション

2016年

7月26日[火]ー9月25日[日]

渋谷区立 松濤美術館  
THE SHOTO MUSEUM OF ART

◎ 広報用画像 A

## 展覧会概要

古来、航路が重なりあう交通の要衝に位置してきた国際性豊かなシンガポール。

その地に生きるプラナカン(Peranakan)とは、中国やインド、ヨーロッパなどからの移民の子孫を指します。彼らはアジアのみならずヨーロッパ諸国の文化を吸収し、独自の異種混雑文化を形成してきました。そのプラナカン文化を象徴するのが、繊細なレースなどで装飾されたクバヤというブラウスと、サロンと呼ばれる色彩豊かなジャワ更紗の腰衣を組み合わせた独自のファッション「サロクバヤ」です。

この展覧会は、日本・シンガポール外交関係樹立50周年を記念して開催するもので、

プラナカン文化の研究者であるピーター・リー氏をゲスト・キュレーターに迎え、

シンガポール国立アジア文明博物館およびプラナカンの名門であるリー・キップリー夫妻の

コレクションを中心に、18世紀から20世紀のサロンとクバヤ、インド更紗のローブ、

ジュエリーやビーズのサンダルなど約140点を紹介します。ファッションという視点から、

シンガポール文化の重層性、さらに日本との関わりまで読み解こうとするものです。



◎ 広報用画像 B

1 上衣(クバヤ) 1950年代 シンガポール国立プラナカン博物館所蔵、リー・キップリー夫妻「シンガポール」著 麗布(カイン/バンジャン/バギッル) 1950年代 リー・キップリー夫妻「シンガポール」所蔵  
2 フローチ(ブニティタック) 1860-1900年代 リー・キップリー夫妻「シンガポール」所蔵 Copyright of Asian Civilisations Museum, Singapore.

# 展覧会のみどころ

## 日本初：シンガポール・ファッション「サロンクバヤ」を一挙ご紹介。



① 広報用画像 C ④ 広報用画像 D ⑤ 広報用画像 E

今展のゲスト・キュレーターをつとめるピーター・リー氏は、シンガポールの著名な歌手で作曲家のディック・リー氏の弟。そんな多彩な兄弟を輩出したプラナカンの名門リー家の蒐集がもとになった「サロンクバヤ」の衣装コレクションが、日本でまとまった形で紹介されるのは初めての機会です。  
(本展は福岡市美術館と渋谷区立松濤美術館のみで開催)  
さまざまな文化が交じり合う、彩りにみちた華麗なシンガポールの社会を、ファッションを通じて感じてみてください。

## おそるべき手わざ。

女性たちがスカートのように身につけていたサロン(腰衣)は、一枚の更紗の大きな布です。幼いころから訓練をつんだ職人や作家たちが、ろうけつ染めの手法を用いた手描きで柄や模様をつけていました。その驚くべき緻密さは、現代では再現するのが困難とさえいわれます。



⑥ 腰衣(サロン) 1920年代 リー・キップリー夫妻 [シンガポール] 所蔵  
⑦ 腰衣(サロン) 1960年代 リー・キップリー夫妻 [シンガポール] 所蔵

## ファッションが物語をつむいでいた時代。



⑧-1 上衣(クバヤ) ⑧-2 腰衣(サロン) 1950年代 ⑨-1 上衣(クバヤ) ⑨-2 腰衣(サロン) 1920年代 ⑩-1 上衣(クバヤ) ⑩-2 腰衣(サロン) 1890-1910年代 ⑩-3 腰衣(サロン) 1890年代

願いをこめた吉祥文様、喪に服する期間に身につけた藍色、西洋の童話「白雪姫」が主題のユニークな模様…布の図柄や色にはそれぞれに意味があり、単なる衣装という枠組みを超えて、身につけた女性のおかれた状況や気持ちをも想像させるような物語をつむいでいたのです。

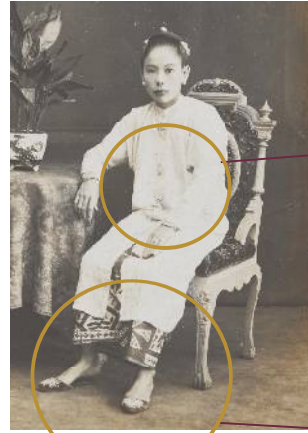
## 海を越えても手に入れたかった、魅力的な布たち。

木綿の目がとても細かく透けることから「ガラスのような」と女性たちが呼んだヨーロッパ産のオーガンジー、繊細なレース。インドやジャワ島の更紗。美しい布への飽くなき欲求は、ファッションのなかに多国籍の布を取りこみ、彩っていきました。



⑪ 上衣(リゾジャンジャン) (部分) 1920-1930年代 ⑫ 上衣(クバヤ) (部分) 1920年代 ⑬ 襟礼用ローブ(カワイ) 18世紀  
⑭ 白鳥文様/ハイヒールビーズスリッパ 1930年代 ⑮ 点組ブローチ(クロサンスロン) 1900-1920年  
⑯-1, ⑯-2, ⑯-3, ⑯-4 シンガポール国立プラナカン博物館所蔵、リー・キップリー夫妻 [シンガポール] 寄贈 ⑰-1, ⑰-2, ⑰-3, ⑰-4 リー・キップリー夫妻 [シンガポール] 所蔵 Copyright of Asian Civilisations Museum, Singapore.

# プラナカンの女性のトータルコーディネート



⑱ ニオニヤ(プラナカンの女性) 1910年代頃の写真

国際的な感覚と富をあわせもつプラナカンの女性たちはとてもおしゃれ。装飾品や履物もあわせたトータルコーディネートを楽しんでいました。

→クバヤ(上衣)にはボタンが無かったので、インドや西洋の影響を受けた「クロサン」という豪華な三点一組の宝石のブローチで留めていました。

→履物は、プラナカンビーズと呼ばれる細やかなビーズ刺繍などで装飾されました。



⑳ 広報用画像 G



㉑ 広報用画像 H

最後にクイズです：世界で一番有名な「サロンクバヤ」は何でしょう？→答えは展覧会会場！

## 関連行事

### ◎ 記念講演会

「サロンクバヤとシンガポール・プラナカンのファッション(仮題)」

講師 ピーター・リー(本展ゲスト・キュレーター)

日時 7月31日(日) 午後2時~(開場:午後1時30分)

内容 本展のゲスト・キュレーター、ピーター・リー氏が、サロンクバヤ、更紗、ジュエリーなどのプラナカン・ファッションおよびシンガポールの文化についてお話しします。

日本語通訳付。  
※要入館料 ※事前予約の必要はありません。

※定員 80名

※直接、地下2階ホールへお越しください。

### ◎ 当館学芸員によるギャラリートーク

8月6日(土)、21日(日)、9月4日(日)  
各回午後2時~

### ★ 真夏の夕のギャラリートーク

8月26日(金) 午後6時~  
※要入館料 ※事前予約の必要はありません。

### ◎ 館内建築ツアー

8月20日(土) 午後4時~4時30分

9月16日(金) 午後6時~6時30分

定員 20名 ※要入館料 ※事前予約の必要はありません。

### ◎ ワークショップ

「華麗なるプラナカンビーズ刺繍で小物づくり」

講師 下山田幸子(プラナカンビーズ刺繍作家)

内容 シンガポールの伝統的なプラナカンビーズ刺繍で小物をつくります。作品はお持ち帰りになれます。

※高校生以上対象

日時 9月17日(土)

午前の回 午前10時~午後1時

午後の回 午後2時~午後5時

会場 地下2階ホール 各回定員 10名

※応募者多数の場合抽選。

受講料 2,000円(材料費) ※要入館料

応募方法 「往復ハガキ」に「希望の回:午前/午後」

「郵便番号」「住所」「名前」「電話番号」を明記し下記宛先まで。(8月31日必着)

宛先 〒150-0046 渋谷区松濤 2-14-14

渋谷区立松濤美術館 サロンクバヤ係

### ◎ 親子美術館見学会&ワークショップ 参加者募集

詳細は美術館 HP サイトでご確認ください。

